

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：24405
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2018～2023
課題番号：18K02070
研究課題名(和文) 身体の自律と保全に関する研究(国際比較)

研究課題名(英文) Research on bodily autonomy and integrity

研究代表者

東 優子 (Higashi, Yuko)

大阪公立大学・大学院現代システム科学研究科 ・教授

研究者番号：60330601

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究が扱う3つの事例ーTGD(トランスおよびジェンダーの多様な)人々の性別承認に係る手術要件、インターセックス児に対する医学的に不必要な性器手術、治療を目的としない男児の包皮切除術ーは「身体の自律とインテグリティ」をめぐる人権課題であり、事前の自由かつ十分なインフォームド・コンセントを欠くという共通点をもつ。本研究は、これら事例をめぐる国内外の研究・実践の動向を把握することを目的に、文献・資料研究、専門家への聞き取り調査、「日本人男性の包皮をめぐる身体イメージと保健行動に関する量的研究」(N=4849)を実施し、その成果を一般メディアを含め広く社会に還元した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

身体の自律とインテグリティに関する権利においては、あらゆる検査・介入・セラピー・手術あるいは研究の実施に先立って、自由な環境で事前かつ十分な説明に基づく同意を得ることが重要であるが、本研究が取り上げる3つの事例においては、まさにその同意をめぐる「危うさ」が問われている。「治療」的必要性があるわけではないが、医療行為としてある意味「ルーティン化」されてきた歴史に注目しつつ、従来のニーズ基盤(Needs-based)ではなく人権基盤(Human Rights-based)で議論を展開しており、今後の望ましい医療や施策への提言に資する研究になることが期待される。

研究成果の概要(英文)：The three cases - sex reassignment surgery as a condition for gender recognition for trans and gender diverse people, medically-unnecessary "normalizing" genital surgery for intersex children, and male genital cutting without therapeutic purposes - are human rights issues surrounding bodily autonomy and integrity without free, full and informed consent. With the aim of understanding trends in domestic and international research and practice surrounding these cases, the authors conducted a literature review, interviews with experts, and a quantitative study on body image and health care practices relating to the foreskin among Japanese men (N=4849).

研究分野：性科学

キーワード：身体のインテグリティ 身体の自律

1. 研究開始当初の背景

身体の自律とインテグリティ (bodily autonomy and integrity) は、国内外の公文書が保障する基本的人権である (WAS 2014) ¹。本研究ではその具体的事例として、性別承認の要件として課される性器手術、インターセックス児に対する早期性器手術、男児のペニスの包皮切除術 (male circumcision : 以下、MC と表記する) を取り上げる。これらの事例に共通するのは、いずれも治療の必要性がなく、しかし医療行為としてある意味「ルーティン化」されてきた歴史にある。身体の自律とインテグリティに関する権利については「自由かつ情報に基づく意思決定を保障するには、性に関わるあらゆる検査・介入・セラピー・手術あるいは研究の実施に先立って、自由な環境で説明に基づく同意を得る」(WAS 2014) ことが重要であるが、本研究が取り上げる3つの事例は、まさにその「同意」をめぐる「危うさ」が問われている。

例えば、昨年 2023 年 10 月、最高裁大法廷が性同一性障害特例法で必須要件とされる「手術要件」の一部を違憲とする決定を下し、ようやく日本でも法改正の議論が本格化しつつあるが、研究を開始した 2018 年当初の状況はかなり異なっていた。2014 年に WHO を始めとする国連諸機関が発出した「強制・強要された、または非自発的な (不妊化手術など) 断種の廃絶を求める共同声明」において、性別を変更しようとする TGD (trans and gender diverse) の人々に「手術」を必須要件とすること、治療上の必要性がないインターセックス児に対して早期の性器手術が実施されることが強く非難されてなお、唯一の学会組織である GID (性同一性障害) 学会内でコンセンサスが得られず、「共同声明の支持表明」さえ公式には発表できないという状況が続いていた。

2. 研究の目的

Duivenbode and Padela (2019) が指摘するように、現代の医療制度は「自己の身体がどのように見え、機能すべきかについて、さまざまな好みをもつ個人にサービスを提供している」が、そうした処置や処遇の要求は「文化的あるいは宗教的価値観、あるいはおそらく…適切な医療行為というよりも社会的嗜好」(p.4) に根ざしているのであり、医療従事者や政策立案者はどのように対応すべきかが問われている²。

そこで本研究は、3つの事例 (性別承認の要件として課される性器手術、インターセックス児に対する早期性器手術、男児に対する MC) の実態、これらに関する国内外の施策や研究・実践の動向を把握することを通じて、「身体の自律とインテグリティ」をめぐる人権課題の現状と課題を明らかにすること、それを施策提言につなげていくことを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 身体の自律とインテグリティに関する3つの事例 (性別承認の要件として課される性器手術、インターセックス児に対する早期性器手術、男児に対する MC) に関する施策や研究・実践の動向を把握することを目的とした、文献・資料研究

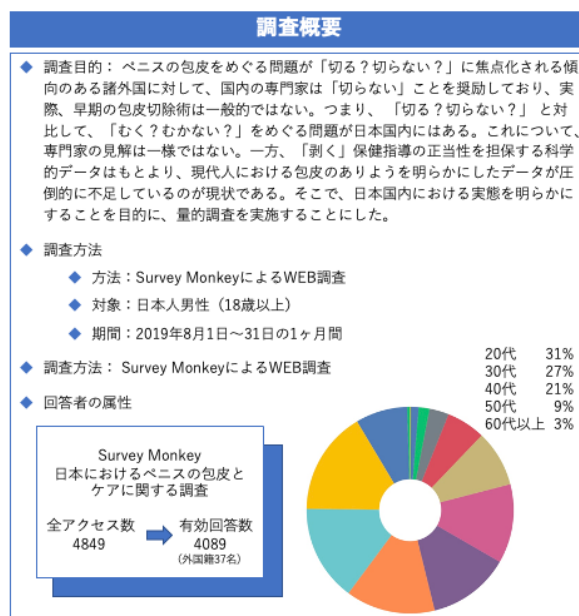
(2) (1) の文献・資料研究を補完するための、専門家への聞き取り調査

(3) 男性の包皮ケアに関する意識・態度・経験を明らかにすることを目的とした調査 (右図)

(4) 国際比較を可能とする学术交流を目的とした国際的ネットワークの構築

4. 研究成果

(1) 身体の自律とインテグリティに関する3つの事例 (性別承認の要件として課される性器手術、インターセックス児に対する早期性器手術、男児に対する MC) に関する施策や研究・実践の動向を把握することを目的とした、文献・資料研究については、



- ・ とくに性別承認の要件として課される性器手術については、最新の臨床知見や施策提言を把握することを目的として、世界最大の国際学会 WPATH (World Professional Association for Transgender Health) が策定する SOC-8 を翻訳し、韓国語版を翻訳したチーム代表者を招聘した研究会を開催し、日韓比較を行った。
- ・ 乳幼児のペニスとそのケアをめぐる言説の傾向を調べるため、包茎 (phimosis)、小児包茎 (pediatric phimosis)、仮性包茎 (pseudo phimosis)、おちんちん (wee-wee)、ペニス (penis) などのキーワードを用い、2009 年から 2018 年までに発表された論文・書籍 61 件を収集したところ、新生児期からの「むきむき体操」の実践の利点と否定的な結果が議論、「仮性包茎」や「偽包茎」という言葉が否定的な意味合いで多用されている実態が明らかになり、このような包茎に対する見方が目立つことは、新生児期の包茎行為や、陰茎の外見に対して否定的なボディ・イメージを抱く男児の心理に影響を与える可能性がある。

(2) (1) の文献・資料研究を補完するための、専門家への聞き取り調査は、とくに「仮性包茎」に関する保健指導において指導的立場にあり、文献の著者でもある日本の専門家(泌尿器科医) 2 名にコンサルティングを依頼し、保健・医療言説の動向を把握した。

(3) 「日本におけるペニスの包皮とケアに関する調査」の結果については、以下の学術誌および学会での口頭発表をしている他、NHK などメディアでも複数回取り上げられた。

- ・ Higashi, Y. 2023. Three cases of actualization of genital normativity in Japan: Trans, intersex, and pseudo-phimosis. International Symposium on Bioethics and Health in Asia (Seoul National University: March 9)
- ・ Onuki, D. and Higashi, Y. 2022. Myth of “pseudo-phimosis” and resulting semi-permanent preputial retraction practice among Japanese men. The 16th Asia-Oceania Federation for Sexology (AOFS).
- ・ Onuki, D. and Higashi, Y. 2019. Is the Japanese Penis Different? - The “Third Way” to Circumcision Debate. International Journal of Sexual Health, 31: 284-285
- ・ 小貫大輔. 2019. 「仮性包茎なんて言葉はやめてしまえ」プロジェクト 身体の自律と保全に関する国際比較研究. 現代性教育研究ジャーナル, 103: 1-7.

(4) 国際比較を可能とする学術交流を目的とした国際的ネットワークを構築した結果、

- ・ The Brussels Collaboration on Bodily Integrity として査読付き論文 Medically Unnecessary Genital Cutting and the Rights of the Child: Moving Toward Consensus (The American Journal of Bioethics, Vol.19: 17:28) を発表した
- ・ Autonomy, Bodily Integrity and Male Genital Cutting (Higashi, 2023) が注目されたことにより、2024 年 3 月に韓国ソウル大学で開催されたシンポジウム INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON BIOETHICS AND HEALTH IN ASIA に招聘され、そこで更にネットワークが広がった結果、2025 年には日本でフォローアップ・シンポジウムを開催する予定となっている。

¹ World Association for Sexual Health. 2014. WAS Declaration of Sexual Rights. <https://www.worldsexualhealth.net/was-declaration-on-sexual-rights>.

² Duivenbode, R., and A. I. Padela. 2019. Female genital cutting (FGC) and the cultural boundaries of medical practice. The American Journal of Bioethics 19(3): 3–6.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 東 優子	4. 巻 35
2. 論文標題 トランスジェンダーの性の健康と権利 人権基盤型アプローチによる議論に向けて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 家族社会学研究	6. 最初と最後の頁 76-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4234/jjoffamilysociology.35.76	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 東 優子	4. 巻 106
2. 論文標題 性と人権に係わる キーワード解説 性の健康と権利/ジャスティス/プレジャー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 8-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東 優子	4. 巻 63
2. 論文標題 性的マイノリティの権利保障をめぐる国内施策の課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小児科	6. 最初と最後の頁 51-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東 優子	4. 巻 63
2. 論文標題 性的マイノリティの権利保障をめぐる国内施策の課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小児科	6. 最初と最後の頁 51-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東 優子	4. 巻 106
2. 論文標題 性と人権に係わるキーワード解説 性の健康と権利 / ジャスティス / プレジャー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 8-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Onuki and Yuko Higashi	4. 巻 31
2. 論文標題 Is the Japanese Penis Different? - The "Third Way" to Circumcision Debate	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Sexual Health	6. 最初と最後の頁 284-285
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/19317611.2019.1661941	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuko Higashi and Daisuke Onuki	4. 巻 31
2. 論文標題 Analysis of Internet Information and Magazine Articles on Foreskin Care in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Sexual Health	6. 最初と最後の頁 486-486
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/19317611.2019.1661941	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小貴大輔	4. 巻 103
2. 論文標題 「仮性包茎なんて言葉はやめてしまえ」プロジェクト 身体の自律と保全に関する国際比較研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代性教育研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Yuko Higashi
2. 発表標題 Three cases of actualization of genital normativity in Japan: Trans, intersex, and pseudo-phimosis
3. 学会等名 INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON BIOETHICS AND HEALTH IN ASIA (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 東 優子
2. 発表標題 TGDと性の健康 スティグマ化の歴史と非病理化の先にあるもの
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 東 優子
2. 発表標題 トランスジェンダーと性の権利： ニーズ基盤型から人権基盤型アプローチによる議論に向けて
3. 学会等名 第32回日本家族社会学会大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Daisuke Onuki, Yuko Higashi, and Tiago Lopes
2. 発表標題 Myth of “pseudo-phimosis” and resulting semi-permanent preputial retraction practice among Japanese men
3. 学会等名 The 16th Asia-Oceania Federation For Sexology (AOFs) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 東優子
2. 発表標題 TGDと性の健康：非病理化とハームリダクションという考え方について
3. 学会等名 GID（性同一性障害）学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuko Higashi
2. 発表標題 The Impact of Gatekeeping: A Candid Discussion
3. 学会等名 The 26th WPATH Scientific Symposium（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Daisuke Onuki and Yuko Higashi
2. 発表標題 Is the Japanese Penis Different? - The “Third Way” to Circumcision Debate
3. 学会等名 The 24th Congress of the World Association for Sexual Health (WAS)（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Higashi and Daisuke Onuki
2. 発表標題 Analysis of Internet Information and Magazine Articles on Foreskin Care in Japan
3. 学会等名 The 24th Congress of the World Association for Sexual Health (WAS)（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Kyoko Nakamura, Kaori Miyachi, Yukio Miyawaki, Makiko Toda (Eds.)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 193
3. 書名 Female Genital Mutilation/Cutting Global Zero Tolerance Policy and Diverse Responses from African and Asian Local Communities	

1. 著者名 宮脇幸生、戸田真紀子、中村香子、宮地歌織、萩原淳平、田中雅博、林愛美、東優子、モハメド・アブ ディン	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 184
3. 書名 グローバル・ディスコースと女性の身体	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	小貫 大輔 (Onuki Daisuke) (60439669)	東海大学・教養学部・教授 (32644)	
研究 分 担 者	da Silva Lopes Tiago Jose (da SilvaLopes TiagoJose) (10903429)	国立研究開発法人国立成育医療研究センター・細胞医療研究 部・専門職 (82612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON BIOETHICS AND HEALTH IN ASIA	開催年 2024年～2024年
---	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------